

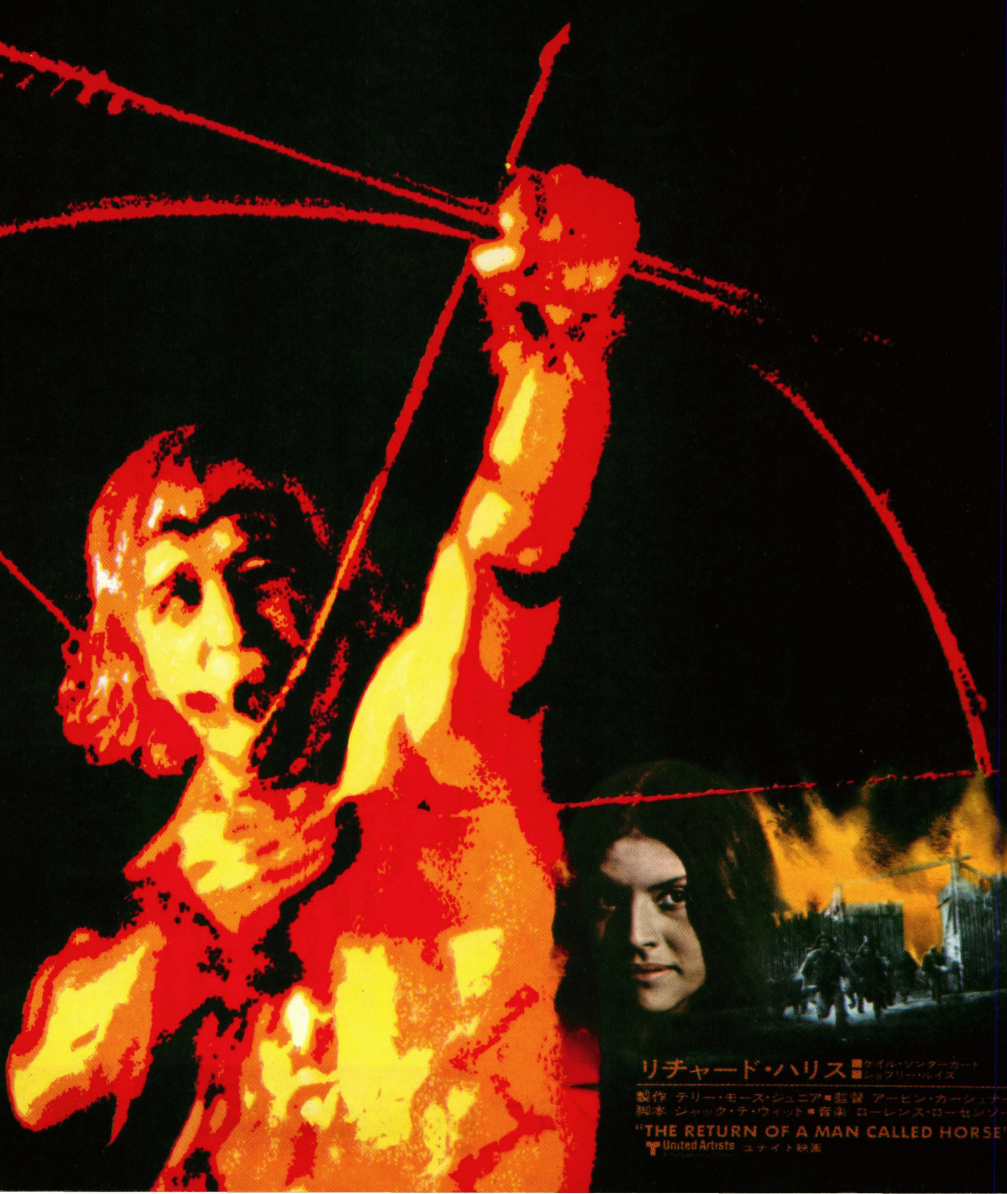
[70mm]



# ザラス・ダコバの戦い

◆カラー作品 パナビジョン◆

忘れることができない  
緑の原野に生命を燃やす冒険と闘争の懐しい日々を！



リチャード・ハリス 主演

製作 テリー・モーリス・シニア ■監修 アーセン・カウシンスキー  
脚本 ショー・ク・チ・ウィット ■音楽 ローレンス・ロウ・セシール

「THE RETURN OF A MAN CALLED HORSE」

United Artists ユナイテッド映画

# ザウス・ダコタの戦い

デラックスカラー・パナビジョン

## キャスト

ジョン・モーガン (長年の女)	リチャード・ハリス
エドムンド・グライス	ジョー・ペック
ランダム・ニコル	ヘンリー・ブルック
テッド・スミス	クリス・エルク
サム・スタース	ポール・ヘン
スタンディング・ベア	ペドロ・ダミアン

## スタッフ

総指揮	サント	ハワード・ニ
製作	ディ・モーズ	カデ・ジョン
監督	ジョン・M・ロー	ゼン・マ
脚本	ドロー	エルトン・ベ
原案	ジョー・エルトン	ベ
音楽	ロビン・スウィ	ット
撮影	ジョー・エルトン	ベ
編集	ジョー・エルトン	ベ

## "THE RETURN OF A MAN CALLED HORSE"

十九世紀の初頭。れっきとした英国貴族の身分をかなぐり捨てて、単身アメリカ大陸サウス・ダコタ地方へやって来た二人の男がいた。彼の目的は、三年前共に戦い生活したスー族インディアン、イエローハンド族と再び相まみえ、精神的交流を果たすことだった。だが――折りからの白人による侵略が開始された故郷サウス・ダコタの上空は、戦いの狼火によっていまも紅蓮に染められようとしていた。再び馬上の人となった男は、同胞の危機を救うべく、遙かなる天空に向けて復讐の矢を放った。彼の名はジョン・モーガン。別名シヤンカワカニ(馬)。無類の智力とスゴ腕でインディアン史上初の白人酋長となり、未開の西部にガッツな冒険魂を炸裂させた伝説のインディアン戦士である。

新宿 ミラノ座 (202) 1189  
●新宿歌舞伎町

◆十年前に一度の超スケール西部劇  
とにかくスケールのドデカイ西部劇である。開拓期西部の面影を未だ残すメキシコ山岳部とサウス・ダコタに大々的に現地ロケを敢行した迫力は並大抵のものではない。特に1800頭の野牛が轟音をたてて70ミリの大画面を右から左へ大暴走するパノラミックなシーンは西部劇ファンならずとも、思わず唸る最高の映画の興奮だ。拔群のテクニクと感覚でパナビジョン・カメラを指揮したのは「フレンチ・コネクション」「エクソシスト」の名手オーエン・ロイズマン。この作品の成功の一因である撮影の素晴しさは、彼の功績に負うところが大きい。この場面の他、1800年代の西部の景観を鮮かな色彩とフレームでとらえた撮影は絶品である。加えて西部劇ファンを興奮の絶頂へ引き上げるのは、クライマックスを構成する岩の白兵戦だろう。火車の威力を最大限に利用したジョン・モーガン指揮下のイエローハンド族と悪徳白人たちによる一大決戦は、そのスケール、迫力ともこの種のアクション場面の白眉である。

◆一世一代の当り役に挑むリチャード・ハリス  
イエローハンドの戦闘守護神として、阿修羅のように荒野を駆けめぐるモーガン脚には、リチャード・ハリス。「別れのこだま」「華麗なる挑戦」「カサンドラ・クロス」と、いま一番乗りに乗るトップスターは、この異色のキャラクターを「彼を置いて適任なし」(製作のサントイ・ハワード)という感じで演じている。共演は、赤狩りのブラック・リストに乗せられ、20年以上もスクリーンから遠ざかっていた名女優ゲイル・ソングガード(風雲児アドバー)が、主人公モーガンの精神的指導者となるインディアン老女を好演。これに「風とライオン」のジョフリー・ルイスがモーガンと敵対する白人商人に扮している。

「リバティ・バランスを射った男」などを書いたドロシー・ジョンソンの短編を基に、小粋なコメディ・アクションに腕を発揮してきた職人監督アービン・カーシユナーが、西部劇の第一級の巨匠に变身した記念すべき作品でもある。◆近來のベスト西部劇に全米マスコミが湧いた!  
「凄まじいアクションが装填された西部劇。O・ロイズマンの絶品の撮影。娯楽アクションの面白さに精神的高さも加えた。サウス・ダコタの戦いは水準以上の西部劇だ」

「19世紀初頭のインディアン風俗をリアルに、しかも娯楽味たっぷりに再現したアクション・ドラマ。最後まで観るものを引きつける」

「続編は第一作に劣るといふ映画界の通例を打ち破ったのみならず、この作品はその何十倍も素晴らしい。アービン・カーシユナーの錬金術師のようなテクニクが近來にないベスト西部劇を作り上げた」

〈サ・ロングアイランド・プレス〉  
〈アフター・ダーク〉  
〈ガネット・ニューズペーパーズ〉

新春第2弾次回ロードショー

渋谷 パンテオン (407) 7219  
●渋谷東急文化会館1階